男鹿のなまはげ伝説　（二）

男鹿市北浦相川　　鎌　田　勇　吉　（６５才）

その鬼どもは、真山の方では、だんだんに騒がれるので、真山の山を越えで門前の方へ行ったど。門前の方へ行ったどごろが、同じく暴れ回ったので門前の部落の人が、神社に石段を作ってくれないかどたのんだど。

石を積んだ場合には、娘をあげると言たど。条件としては、にわどりの泣くまでに石段を積んでくれど言たど。

そこで鬼どもは一生懸命に頑張ったどごろが、九十九まで積んだどごろが、その時、部落の人達は、積れては娘を一人ずつやらなきゃならないので、にわとりの真似のうまい人を頼んで、九十九積んだ時に、真似したど。

そこで、鬼どもは、くやしいので、そこにある木をぬいて、逆さにしたという話だ。